

農業委員会だより

第 96 号
令和6(2024)年
12月2日発行
〈編集・発行〉
大田原市農業委員会
大田原市本町1-4-1
TEL.0287-23-8716

E-mail/nougyou@city.ohatawara.tochigi.jp



チームあゆみ × 東洋大学蜂巢ゼミ学生コラボ企画 「Instagramを活用した農業経営スキルアップ講座～vol.4～」

令和6年10月18日に大田原市役所湯津上庁舎において「チームあゆみ」と東洋大学学生のコラボ企画「Instagramを活用した農業経営スキルアップ講座～vol.4～」が開催されました。Instagramを活用して、皆さんに農作業の様子や農産物を発信し、経営に繋げていくのが狙いです。終始和気あいあいとした雰囲気写真からもその様子がうかがえます。

農業機械の盗難について

農業用機械の2023年における全国盗難件数は135件となっており、特に3月～4月に増加傾向にあります。農地に置いて帰らない、エンジンキーを必ず抜く等の対策をしましょう。

充電式バッテリー火災の発生について

近年、全国で草刈機やインパクトドライバーに使用される充電式バッテリーの火災報告が増加しています。なるべく純正品の商品をお使いいただき、使用後はバッテリーを外す等、適正な保管に努めてください。

ご注意
ください!!



7/8
~7/10 北海道視察研修に参加して

2024年7月に農業委員13名で北海道へ2泊3日の視察研修に行きました。旭川の大規模農業法人と北海道大学農学部の研究室を視察しました。

旭川の農業法人は主に黒豆を生産しており、大規模化とともに、品質の向上にも力を入れ、高単価を実現している体系的な取り組みはとても参考になりました。

北海道大学では最新のスマート農業の研究室を訪れました。様々な情報が表示されたディスプレイを見ながら、学生が遠隔のトラクターを操縦していました。インターネットがつながれば何百km離れていても操縦可能ということです。自宅に居ながら農作業ができるという時代は遠くないのかもしれない。私を含め農業委員の皆さんは大いに刺激を受けました。



北海道視察研修を通じて学んだことは、農家の皆さんとの交流の場などで、情報共有していきたいと思えます。

(文：岩城善広)



8/30 農業委員・農地利用最適化推進委員研修会に参加して

今年8月30日に栃木県農業会議創立70周年記念式典及び農業委員・農地利用最適化推進委員研修会が栃木県教育会館大ホールで開催され、県内市町の農業委員・推進委員約800人が出席されました。大田原市からは農業委員15名、推進委員20名が参加し、記念式典では栃木県農業会議議員を12年勤め上げた前農業委員会会長五江淵氏が表彰されました。

研修会では農林水産省経営局長 杉本淳氏から「食料・農業・農村基本法」の見直しと今後の地域農業について受講したほか、大田原市農業委員会事務局職員から地域計画策定に向けた農業委員会の取り組みについて、これまでの話し合いの経験をもとに事例発表を行いました。

(文：事務局)



10/30 市及び市議会 意見書提出

令和6年10月30日に市長及び市議会議長に「令和7年度農地等利用最適化推進施策の意見書」を提出しました。

遊休農地の発生防止・解消、農地利用の集積・集約化、新規参入の促進など「農地等の利用の最適化の推進」についての意見に対して、今後12月に回答がある予定です。

意見書に対する回答については、農業委員会だより3月号に掲載予定です。

(文：鈴木賢一)



11/4 長野県長野市農業委員会視察研修に参加して

長野県長野市農業委員会から大田原市の女性農業委員の活躍や地域計画の先進事例を学びたいとの打診を受け、大田原市役所本庁舎市民共同ホールで視察研修が行われました。長野市農業委員会からは農業委員、農地利用最適化推進委員、併せて26名（うち女性委員2名）、大田原市農業委員から17名（うち女性委員6名）が出席しました。大田原市農業委員「チームあゆみ」の活動報告や事務局から地域計画の進展状況等を発表し、その後意見交換が行われました。

後日、長野市農業委員会からの御礼状で「女性農業委員が活躍し、良い雰囲気を作っていると感じた」「地域計画策定並びに目標地図の作成について、十分な話し合いを行う姿勢は、価値ある将来像の策定に繋がると思われた」等の意見を頂きました。

(文：助川悦夫)





今年もおいしい梨が収穫できました

川西地区

農業委員 鈴木 賢一

梨を栽培して、早いもので40年が過ぎようとしています。米と梨と両立しながらやっていますが、農作業が重なる夏は大忙しです。

これから日本の農業がどのようになっていくか、想像もつかない時代になってきていますが、地域の皆さんと協力して農地を守っていきたいと思います。



来年も酷暑の中トマトづくりがんばります。

大田原地区

農業委員 佐藤 孝

私の住む大田原西地区は新興住宅地域です。農業を営むには厳しい地域で、ドロが道路に、早朝の無人ヘリ防除、草刈機の音など苦情が絶えません。

そんな中でもしっかり食糧生産に取り組まれている人がいます。農地は生き物の生命を育むものです。農地を未来に引き継ぐために微力ですが頑張ります。



おいしい米(コシヒカリ)づくり頑張ります!

両郷地区

推進委員 大森 清五

定年退職後、兼業農家から専業農家になり13年目です。推進委員は3期目になります。

農業体験民泊を始めて9年目になり、年20回前後受け入れをしています。令和5年度山形県庄内町第17回あなたが選ぶ日本一美味しい米コンテストの決勝大会に進出し、2度目の優良金賞を受賞しました。

少しでも地域に貢献できるよう努めて参りますのでご協力をよろしくお願いします。



大豆の収穫前の草刈り作業です

金田地区

推進委員 佐藤 貞男

推進委員として3期目になります。10年後の農地利用は「？」ということで、将来を担う若い農業者の方々を中心に、地域計画の話し合いに参加していただき、農地の集約等(目標地図の作成)を目標に取り組んでおります。ご協力をよろしくお願いします。

大田原市女性農業委員グループ「チームあゆみ」活動スナップ

(文：古沢成子)

10/7

とちぎ女性農業委員の会 20th 記念式典

栃木県総合文化センターサブホールでとちぎ女性農業委員の会20周年記念式典が開かれ、チームあゆみ6名が出席しました。栃木県知事の記念講演ではチームあゆみの活動紹介もありました。



10/18

Instagramを活用した農業経営スキルアップ講座

東洋大学蜂巣ゼミ学生の皆さんを講師に迎え、販路の拡大や興味を持ってもらうためにInstagramの使い方の講座を開催しました。チームあゆみも一緒に講座を受け、楽しく学ばせてもらいました。



11/15

関東ブロック女性農業委員等研修会

埼玉県浦和市にある県民健康センター大ホールにおいて、関東女性ブロック女性農業委員等研修会が行われました。チームあゆみ5名が出席し、久喜市農業委員の高橋七海氏による農業委員活動や全国農業会議の佐藤陽平氏の地域計画、女性委員の登用についての講演を聴きました。



QRコードからもいけます
「チームあゆみ」



大田原市女性農業委員グループの活動を紹介します

ホームページのご案内 大田原市ホームページ内のキーワード (https://www.city.ohawara.tochigi.jp/)

農業委員会 サイト内検索
チームあゆみ サイト内検索

で「農業委員会」ページをご覧ください
で「チームあゆみ」ページをご覧ください

よろしくお願ひします 第12回 くりた のりあき 栗田 典明さん（狭原）

今回は、大田原市狭原でぶどう農園を営んでいる「栗田典明」さん(38歳)をご紹介します。

令和4年に就農し、今年で3年目になる栗田さん。就農するまでに栃木県農業大学校や旧岩舟町（現在の栃木市）の農家さんの元で栽培を学び、ぶどう農園を始めました。栗田さんは、多品種のぶどうを栽培しており、多くの人にその美味しさを知ってもらいたいと思ったこと、地元大田原にはぶどう農園を営んでいる人がいないことがぶどう農家となるきっかけでした。

現在ぶどう農園は50㎡ほどを経営。去年から徐々に販売できるようになり、今年も9月から10月いっぱいまで収穫をし、シャインマスカットをはじめ、9品種のぶどうを販売しました。口コミやInstagramを使った情報発信、グー



グルマップ掲載もあり、少しずつ地元の方に認知され、美味しかったとの声も聞かれるようになってきたことが嬉しく、一番の励みになっています。何よりお客様に喜んでいただけるのは、少し時間はかかりますが、注文を受けてからぶどうを収穫し、お渡ししています。獲りたてのぶどうは瑞々しさと香りが格別です。

コツコツ、少しずつ前に進んでいく栗田さんの目標は地元の人たちに喜んでもらえるぶどう農園になることで、来年は品種も増やし、皆様をお待ちしていますとのことです。

（取材：事務局）



農業者年金で豊かな未来を

いしつか たすく

石塚 翼さん（26）（中野内）

北海道の畜産大学を卒業し、就農して5年目の翼さん。親が加入していることや農業委員さんからの声掛けもあり、パンフレットを見て、積立方式で税制優遇があることが魅力で今年の3月に農業者年金に加入されました。ぜひ皆さんも加入を検討してください。



国民年金だけでは心もとないので自分で積み立てていきましょう。

加入のご相談は、農業委員会事務局またはJA窓口まで

編集後記

年末何かと忙しい時期になってきましたが、農業経営の1年を振り返るためにも青色申告に取り組みましょう。また、地域計画も終盤に向かい目標地図ができつつあります。地域農業の将来を考えるため、今後もご協力お願いします。

来年は巳年（みどし）、実のある良い年になるようご祈念申し上げます。（編集委員 植竹 裕子）

【農業委員会だより編集委員会】

（農政班）助川悦夫・阿見芳・渡邊和子・笹沼保治・屋代幸子・津久井勝之・植竹裕子・越沼良

青色申告を始めませんか？

青色申告をすれば青色申告特別控除を受けたり、青色事業専従者給与を必要経費に算入できます。大田原地域青色申告会大田原支部では毎年各種税務申告（源泉所得税納付・年末調整・確定申告・消費税申告等）の指導会を開催し、会員の方へサポートを行っています。

また、税理士の無料相談やインボイス制度の相談も受け付けています。ぜひ加入を検討してください。また、青色申告を始めるためには青色申告をしようとする年の3月15日までに「所得税の青色申告承認申請書」を税務署に提出する必要があります。

加入のお問い合わせは 大田原地域農業青色申告会事務局（農業委員会事務局）☎23-8716



指導会の様子

年会費 5,000円 です